

花き生産技術(キク類、枝物)の習得による経営安定

対象者 甲賀市甲賀町 Y氏

【普及活動のねらい】

Y氏は、甲賀地域で普及が進む中輪ギク栽培に早くから興味を持たれており、平成30年度末に一般企業の定年退職を機に「花き＋水稲」の複合経営を目指して就農されました。

令和元年度には、収益性や水稲との作業競合の回避を考慮しながら品目を検討して、少量土壌培地耕による加工用中輪ギク（施設面積325㎡、植付け本数14,880本）と露地での枝物栽培に取り組むこととなりました。

令和元年度中に施設等の準備を進め、令和2年度から加工用中輪ギクの生産を開始されました。当課は、Y氏が花き専用ハウスを用いた「花き＋水稲」モデル経営体となるよう、中輪ギク栽培年二作体系の栽培技術の習得に向けて支援を行いました。

【普及活動の内容】

直挿しから育苗、フラワーネットの張り方、花首徒長防止のためのわい化处理など、切り花品質に直結する重要な作業が確実に行われるよう、現地での指導をこまめに行いました。また、最も労力のかかる収穫、出荷調製作業に無理が生じないよう開花調整を徹底し、収穫開始時期を3回に分けるよう提案しました。

さらに、加工用切り花としての価格の安定を求めるためには、花束加工業者のニーズ（時期、品質）に対応した生産が重要であることから、卸売市場担当者との意見交換会を開催しました。



給液の設定等について説明

【普及活動の成果】

以上の取組の結果、花束加工業者が求める、収穫遅れによる蕾の開きすぎや花首徒長による草姿不良等が無い良品なキクを生産することができました。これにより、盆前出荷作型では、目標出荷率（植付本数に対する出荷本数の割合）85%に対して90%（13,400本）を出荷することができました。11月末～12月初旬出荷作型についても、出荷率は92%（13,700本）となりました。



収穫適期となったハウスおよび花蕾

次年度は、ハウスをもう1棟（292.5㎡）増棟してのキク年二作体系の実施に加え、露地での枝物の生産と出荷の実施により、対象が持続的な「花き＋水稲」経営体となるよう、引き続き支援していきます。